

2022年3月期第2四半期業績説明会 主な質疑応答

【2022中期経営計画】

全般

Q1：中期経営計画の中にある「NOF VISION 2025」の「ステージⅠ」の営業利益目標を1年前倒しで達成見込みだが、最終年度である2022年度の営業利益目標の見直しを考えているか。また「ステージⅡ」をどのように見ているか教えてほしい。

A1：2021年度は好調に推移し、1年前倒しで営業利益目標を達成する見込みだが、最終年度である2022年度については、これから予算編成を行うので、その中で数値を固めていきたい。2025年度の数値目標についても、2022年度に編成する新たな中期経営計画策定の中で見直していきたい。

Q2：中期経営計画の各種施策について、設備投資も含め、順調に進んでいるかの評価をお聞きしたい。

A2：全体としての業績もそうだが、個々の中身でも着実に成果が出ている状況である。設備投資についても計画通り進捗している。

Q3：営業利益目標を1年前倒しで達成の見込みだが、これは主に外部環境によるものか、あるいは、各種施策が着実に実を結んだ結果のどちらと考えているか。

A3：需要が回復しているという外部環境要因も当然あるが、その環境に応えられるよう製品開発を進めるなど、各種施策が結果に結びついていると評価している。

【2021年度業績見通し】

事業環境

Q4：機能化学品セグメントの下期について、売上、営業利益共に下がる見込みだが、化粧品原料、防錆剤、自動車関連等の主要製品の上期状況と下期見通しはどうか。

A4：化粧品原料は、上期インターネット販売などが堅調で、下期も回復基調が続くとみている。新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、今年度については回復基調が続くとみている。防錆剤や自動車関連製品は、半導体供給不足の影響が上期後半から出始めており、下期も影響が拡大していく見込みだが、通期では前年実績を上回るとみている。

Q5：機能化学品セグメント、ライフサイエンスセグメントでの原料高の影響と値上げの状況について教えて欲しい。また、物流費の高騰についてもどのような対応をとっているのか教えて欲しい。

A5：機能化学品セグメントにおいては、主に脂肪酸誘導体、界面活性剤、有機過酸化物が原料価格

上昇による影響を受けている。また、ライフサイエンスセグメントにおける食用加工油脂においても原料価格上昇による影響を大きく受けている。原料価格上昇に対しては、価格改定などによる採算是正の取り組みを行っているが、すべてを転嫁することはできていない。今後も、引き続き顧客の理解を得ながら、採算是正の取り組みを進めていく。
また、物流費についても価格改定の取り組みのなかで、必要に応じて顧客に負担をお願いしていく。

Q 6 : ライフサイエンスセグメントが上期好調で、通期業績予想も上方修正しているが、背景を教えてください。DDS事業が牽引していると思うが、伸びた理由を教えてください。

A 6 : ご指摘の通りDDS事業の好調が上期のライフサイエンスセグメントの好調を支えている。要因としては、新型コロナワクチン向けの関連需要が好調だったためである。下期については、当該需要が落ち着き、若干減販になると想定している。

固定費他

Q 7 : 「2022年3月期第2四半期（累計）決算説明」のP.13の営業利益の差異要因において、P.5の上期実績と比較すると下期、固定費が膨らんでいるのはなぜか。また、棚卸影響が膨らんでいる理由も併せて教えてください。

A 7 : 固定費増加の要因については、営業活動が正常化してきており、それに伴う費用増を見込んでいる。
棚卸影響については、機能化学品セグメントで2020年度末と比較して在庫水準が引き上がる想定をしており、プラス影響として織り込んでいる。

【DDS事業】

Q 8 : 新型コロナワクチン用途で使用されているのか。

A 8 : 守秘義務等もあり詳細はお答えできないが、PEG脂質が新型コロナワクチン向けで使用されている。

Q 9 : DDS事業の今後の成長率をどのようにみているか？

A 9 : 年度による凸凹はあるものの、年率10%程度で今後も成長するとみている。

Q10: 「DDS事業の展開」P.14にて新型コロナワクチン向けが減少すると見込んでいる一方で、P.23の販売計画は伸びる計画となっているが、新型コロナワクチン向けが減少する影響は受けないのか。

A10: 影響を受けないことはないが、当該販売計画は、新型コロナワクチン向け以外のペプチド・タンパク質医薬用が順次、上市されることによる売上増を見込んでいる。

Q11：「DDS事業の展開」P.16にあるイオン性脂質・PEG脂質の現時点でのDDS事業の中での売上構成比は？また、核酸医薬は年率30%程度の伸長予想としているが、これに合わせてDDS事業も伸びるのか？

A11：イオン性脂質・PEG脂質は、核酸医薬用に検討中で、これから販売を伸ばしていくが、現状の割合は開示できない。但し、今後の成長に期待している。
また、DDS事業全体の伸長率は、年率10%程度を見込んでいます。

Q12：以前、年率8%程度の売上成長と聞いていたが、コロナ禍で顧客の研究活動停滞などの影響によって伸び率が鈍化するといった影響はあったのか。

A12：コロナ禍による研究開発等への影響は特になく、年率10%程度で順調に成長している。

Q13：現時点で、イオン性脂質・PEG脂質は規模としては小さいのか。

A13：個別の売上規模についてはお答えできないが、新型コロナワクチン向けにPEG脂質が使用されている。

Q14：今後、新型コロナワクチン向けの需要が減っても影響はないか。

A14：影響がないことはないが、他の核酸医薬用を拡大させることによってトータルで今後も年率10%程度の成長を見込んでいます。

Q15：「DDS事業の展開」P.14にて、新型コロナワクチン向けが2022年以降減っているが、販売数量としても落ちていくのか。

A15：「DDS事業の展開」P.14のグラフは、Evaluateのデータを基に作成したものだが、今後市場としてどう動くは、経口治療薬も出てきており、不透明な状況だと考えている。但し、2021年度に限れば、新型コロナワクチンが不足している状況で急激に需要増加した状況にある。

Q16：100億円超の能力増強について、製造能力が何倍になるのかなど、数値があれば教えてほしい。また、当初計画より投資額は増額しているのか。

A16：現行能力の倍増を計画している。尚、当初計画に対して、活性化PEGなど主力製品の上市時期も考慮し、若干上振れている。

Q17：100億超の投資は、イメージとしてどれくらいの売上につながるのか。

A17：投資を回収したうえで、事業拡大を進めていくことができる規模だと考えている。

Q18：投資の具体的な時期は決まっているのか。

A18：詳細な時期は詰めている段階だが、2025年度までに100億円超の投資を完了する予定である。

Q19：活性化PEGおよびイオン性脂質用の設備増強の場所はどこで検討しているか。

A19：当社の愛知事業所で検討している。

Q20：愛知事業所にDDS関連の設備はあったのか。

A20：現時点ではない。

Q21：愛知事業所に設ける理由はなにか。

A21：BCPの観点より愛知事業所での設備投資を計画している。

Q22：DDS事業の営業体制強化において、今後更なる拠点の拡大は考えているか？

A22：本年9月にボストンにサテライトオフィスを新たに開設した。状況に応じて今後もサテライトオフィス開設の検討を行う。

Q23：DDS事業の競合はどこか、また競合との比較での強みは何か。

A23：脂質製品については、競合は、欧米、中国などに複数社あるが、詳細については当社からは開示できない。因みに活性化PEGについては、当社が世界シェアNo. 1であると考えている。

当社の強みは、GMPでの豊富な製造実績、顧客の開発ステージに合わせた少量からの製品提供、高度な製造技術、GMP対応した品質管理体制である。

Q24：DDS製品の位置づけは川上から川下どの辺りに位置するのか。

A24：医薬品メーカーに中間素材としての化学品を供給している立場である。

以上